授業科目　高次機能障害学

【担当教員名】	対象学年	3	対象学科	理学
能登　真一	開講時期	後期	必修選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【カリキュラムポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	○	◎	○

【概要・一般目標：GIO】

脳損傷によっておこるさまざまな高次脳機能障害について，理学療法士が臨床現場でそれらを的確に評価し，あるいはそれらの障害に対して的確なアプローチができるように，基礎知識を整理した上で，評価方法，アプローチ方法などを学習する.

【学習目標・行動目標：SBO】

1．高次脳機能障害を学ぶための脳解剖知識が整理できる.
2．高次脳機能障害の個々の症状を列記し，それらが生じるメカニズムを理解できる.
3．それぞれの高次脳機能障害に対応する評価方法を述べ，一部を実施できる.
4．個々の高次脳機能障害に対するアプローチの基本姿勢を説明することができる.
5．個々の高次脳機能障害に対するアプローチ方法について，議論できる.
6．高次脳機能障害に関心を持ち，治療者としての責任感を身に付けることができる.

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	脳解剖の整理と高次脳機能障害の概説	1	講義
2	高次脳機能障害の臨床像	2,3	講義
3	失語，失行，失認とその評価・アプローチ方法	3～6	講義，演習
4	注意障害，記憶障害とその評価・アプローチ方法	3～6	講義，演習
5	半側空間無視とその評価・アプローチ方法	3～6	講義，演習
6	Pusher 症候群とその評価・アプローチ方法	3～6	講義，演習
7	前頭葉症状とその評価・アプローチ方法	3～6	講義，演習
8	まとめ	1～6	講義

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格 他＞
教科書 （必ず購入する書籍）	高次脳機能作業療法学	能登真一	医学書院	2012・3,800 円＋税
参考書				
その他の資料				

【評価方法】

出席＋態度＋期末試験によって判定する

【履修上の留意点】